



戦争の悲惨さを 平和の尊さを 伝え続けるために

平和を次の世代へ



終戦から75年 過去から学ぶべきこと編

戦争は死者や負傷者といった直接の被害だけではなく、人々の心にもとても大きな傷を残しました。終戦から75年が経ち、当時の様子を知る方たちが減り続けている中、戦争を二度と起こさないために、改めて戦争の悲惨さと平和の尊さを学びませんか。

私たちが住む国分寺市で戦時中に起こった主な出来事を写真とイラストで紹介しします。詳しくは、市内図書館所蔵または武蔵国分寺跡資料館・史跡の駅おたカフェで販売の「国分寺市の戦争記録 戦争末期の国分寺町内で起きたこと」(国分寺市教育委員会)をご覧ください。

戦時中に市内で起きたこと

昭和12(1937)年 日中戦争開始 国分寺村民の出征

日中戦争が始まると、その影響は国分寺村にも波及します。この年の8月以降、国分寺村の住民も相次いで出征するようになりました。この頃の日本では、20歳になった男性は徴兵検査を受け、身体が特に健康なものは兵士になることが法律で義務付けられていました。



国分寺駅近くでの入営兵の見送り(昭和13年1月)
佐藤美喜子さん所蔵



国分寺駅にあふれる入営兵見送りの人たち(昭和13年1月)
佐藤美喜子さん所蔵

昭和14(1939)年 第二次世界大戦開始

昭和15(1940)年 国分寺村から国分寺町に

昭和20(1945)年1月9日 午後3時頃 国分寺町でB29撃墜される

国分寺町北部を飛行中のB29(大型爆撃機)に対して、調布飛行場の飛行第244戦隊所属の飛燕(戦闘機)が、体当たり攻撃を行い、撃墜しました。飛燕のパイロット(高山少尉)は生還しましたが、B29の乗員は全員死亡し、B29の残骸と遺体が、国分寺町北部から小平町南部にかけてのかなり広範囲に渡って落ちてきました。国分寺町で収容された遺体は、鳳林院近くの無縁墓地に、埋葬されました。



友人出征記念写真(昭和19年頃)
吉野文吉さん所蔵



B29への飛燕体当たり(昭和20年1月)
萩原明夫さん所蔵



体当たりで撃墜したB29を見に駆けつけた高山少尉(昭和20年1月)
萩原明夫さん所蔵

昭和20(1945)年8月 6日午前8時15分 広島市原爆投下 9日午前11時2分 長崎市原爆投下 15日 終戦

お家で学ぼう

国分寺市HP

国分寺市広報番組「国分寺ぶんぶんチャンネル」で放映した「国分寺と平和 戦後75周年を迎えて」が見られます。

HP <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/kouhou/1018308/1023746.html>



インターネットで戦争のことが学べます。

広島平和記念資料館HP

ピースメッセンジャーが訪問している広島平和記念資料館で開催中の新着資料展の展示品や動画での解説が見られます。

HP http://www.hpmmuseum.jp/modules/news/index.php?action=PageView&page_id=207



→人権平和課 ☎(042)573-4378